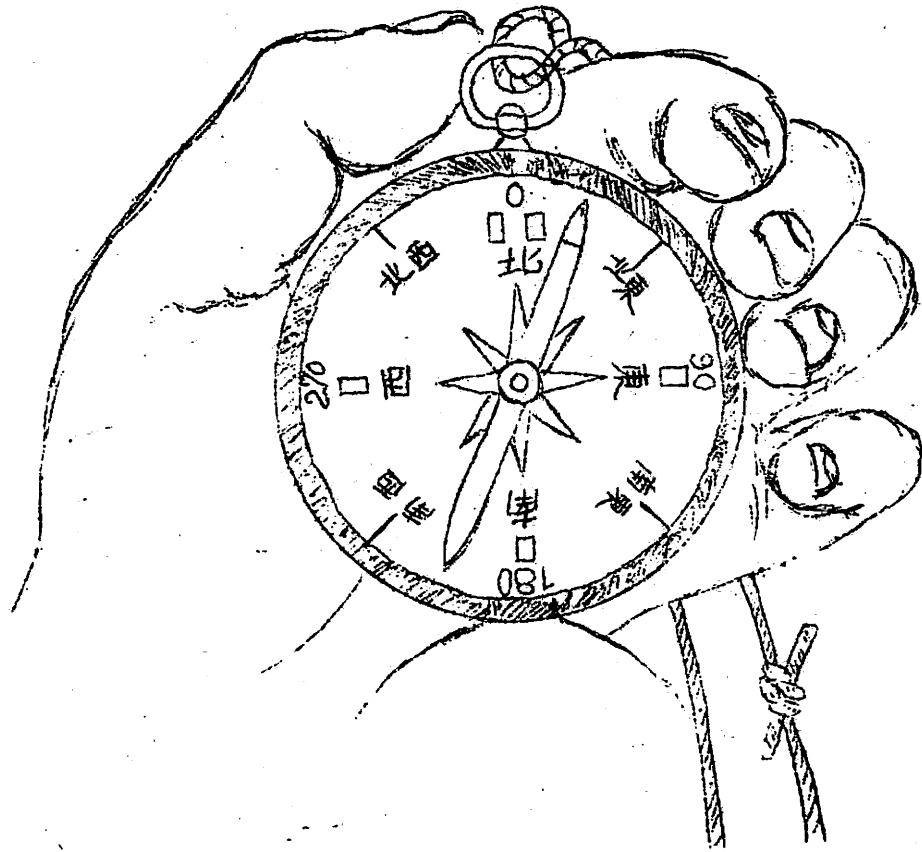
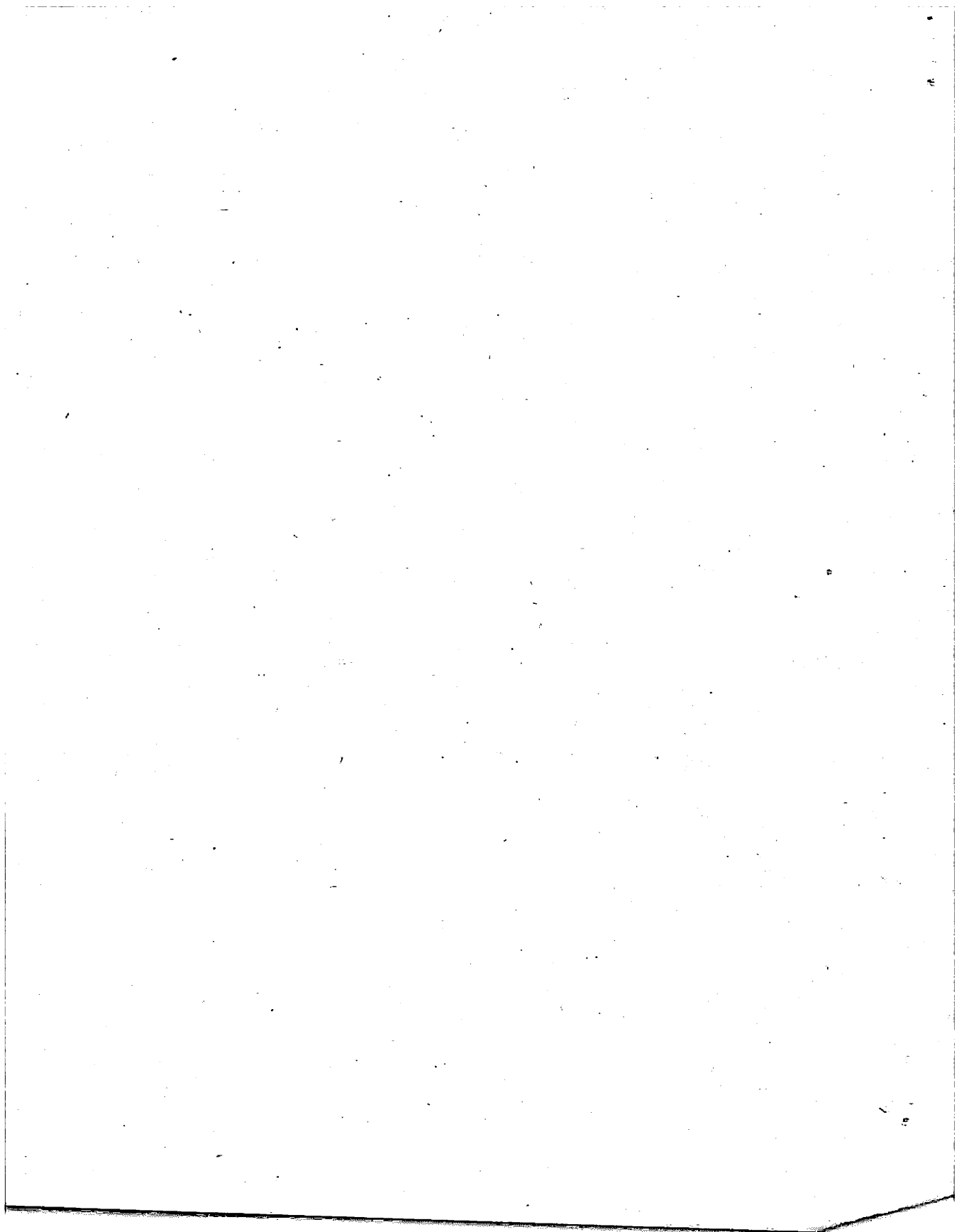


80 新人合宿報告書



信州大学山岳会

S, A, C



'80 新人合宿

6月1日～6月4日

○ 6月1日 ● → ◎

A party member (L) 山本 田辺 岩村 飯島 澤田 中根
松本⁹⁷²⁻ 島々 ——— 鮎留小屋 ——— 徳本峠 ——— 明神天場
6:10 10:35 15:00 17:00

雨が降ったり、太陽が顔を出したりで、天気はめまぐるしく変った。また湿度も高かった。峠への道は途中までは割と傾斜の少ない登り坂だったが、鮎留小屋あたりから起伏が多くなり、最後の峠付近の坂は急な登りだったので荷物が重いと苦しい道だ。私事に関して言えば、後半、非常にバテ、パーティーのブレイクとなった (澤田)

B party member (L) 吉岡 茂呂 有賀 金
松本⁹⁷²⁻ 島々 ——— 鮎留小屋 ——— 徳本峠 ——— 明神天場
6:05 11:00 17:00 18:30

殆ど雨が降っていたので道のぬかるみや木橋に足をとられ、しかもザックが雨に濡れて重くなり、途中でバテてしまった。そのため他のメンバーに迷惑をかけ、徳本峠着かだいが遅れてしまい、申しわけなかった。さすがにテニ場に着いた時はほっとした。
(金)

C party member (L) 川原 藤井 田判 高橋 細川

松本 ツツ 島々 —— 鮎留小屋 —— 徳本峠 —— 明神天場
6:10 10:01 14:20 17:00

全体を通して雨が降っていた。雨具をつけると発汗が多く体力を著しく消耗する。また足元も危かしく、一度転倒した。比較的平坦であるが長いアプローチにすっかりバテてしまった。峠への登りは苦しさの極致。ほとんど意識がなく、何度かひっくりかえった(5L) 右手はスリキズだらけ。顔に雪をつけてもらったのと「高橋 この階段で最後や」と言う藤井さんの声しか記憶にない (高橋)

D party member (L) 加藤 保科 丸山 松本 伴

松本 ツツ 島々 —— 鮎留小屋 —— 徳本峠 —— 明神天場
6:08 12:50 16:42 18:12

天気は、少し雨が降った程度で、全般的に曇りだったので歩きやすかった。最初ゆくりすぎたので後半バテた。徳本峠で、スパッツ ビックルをつけたが、例年になく雪が少ないとかで、両方必要でなかった

(伴)

6月2日 ①とまどき② PM 3:30(=35) ●

- Aパーティー L 山本・岩村・田辺・中根・飯島・沢田
Bパーティー L 吉岡・田渕・有賀・金
Cパーティー L 川原・藤井・細川・高橋
Dパーティー L 加藤・保科・丸山・松本 伴

以上の4隊にて横尾のB・Cへ向う

記録 Cパーティー

明神T.S 6:25発 — 徳沢園 — 横尾BC
7:15 9:50

明神のテントサイトの朝は明神が鋭くそびえ立ち最高の気分であった。朝の上高地を快調に横尾へ……などとうまくいくわけもなく、

昨日の“ザクズク”の痛みに悩まされた。

明神—徳沢の間でカモシカを見た

徳沢—横尾間の前穂東面展望台で先輩に

山や沢の名前をおしえてもらった “たいへんた

めに存った” ことにしておこう。あれ以来、

“ホボ山”と“テッパイ岩”が頭からは取れない

重荷にあえぎながらもB・Cに着いた。肩風岩

かきとり立っていた。はやくおん存所を登るようになりたかった。

6月2日 Dパーティーの記録

明神TS — 徳沢園 — 横尾のBC

6:24 @ 7:45 @ 10:35 @

- ・朝からいい天気で 木もれ陽の中を歩くのは最高の気分であった
- ・道の具合は良好であるが 徳沢-横尾間は数ヶ所 落石の危険あり 要注意!!
- ・山の解説の時 雲が出たのは残念だった

横尾BCでカー年生

10:00 ~ 11:00	テント設営	12:20 ~ 14:30	お茶会
11:00 ~ 12:30	お休み	14:30 ~ 16:00	おせつのおらい
11:30 ~ 12:20	まきあらい	16:00 ~ 17:00	天気図作成

6月2日 涸沢偵察隊

メンバー 吉岡・川原

11:30 BC発 @ ⇒ 14:00 BC着 ●

- ・夏道を涸沢ヒ、テの見える所まで行く。

涸沢はもう夏ヨ!! 涸沢のすゝと上のほうまで氷が出

ている。他にもいたる所 地ハダが のそき夏夏近ま感

じさせる 時期もおそいか、例年より少し氷雪が少

ないのは確かだ、涸沢手前1km. まではずーと夏道

本谷橋で おてると スラックスに革靴をはいたおサコが かけぬけ

て行く。おれはトシロウトか 達人か けたまた変装者か。

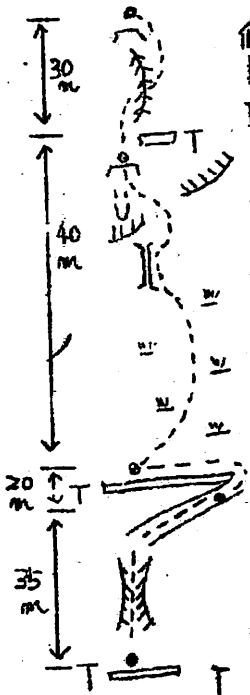
6月3日 ①時々②

○松高ルート左ルートパーティ L:吉岡 M:丸山

B:C 一周戻 5.6のコル 取付 終3 3.4のコル
 5:10 7:10 8:05 9:30 13:40 14:00

一周戻 B:C
 15:00 16:30

○取付までは、北条新村パーティと同じ。どこを通っても行け
 そうで、あちこちに残置ピトンやシュリンゲがみえた。
 ルートがはっきりなかった。



傾斜はなく
 易い。

Ⅲ Top 吉岡 Zwei 丸山

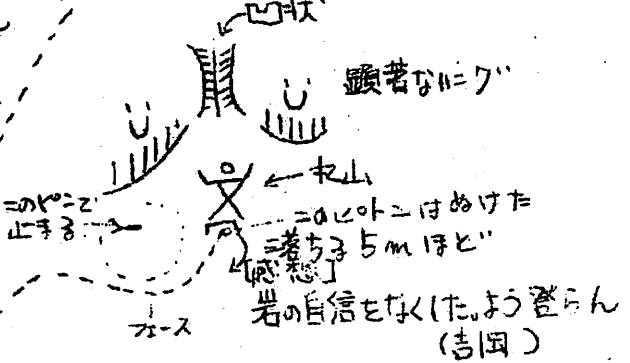
上部草付スレスレの下部は傾斜もなく易いが、
 上部が少しむずかしい。Ⅳ Top 丸山 Zwei 吉岡
 右ハマゆり込みなくともまっすぐ行けるようだ。
 もう少しで数メートル上のビルド点に行け
 たらたが、サクルが1つはいいのため
 行けなかった。

浮き石の多いバンドをぬけて残置ピンのある
 左ハトラバス Ⅱ Top 丸山 Zwei 吉岡

もうひとつ左の凹状部がルートらしかった。
 Ⅲ Top 吉岡 Zwei 丸山

1-サクルで北尾根ハ出た4峰を越えて本隊と合流
 Ⅵ 緩傾斜帯 3.4のコルを下降

Ⅲ Top 吉岡
 Zwei 丸山

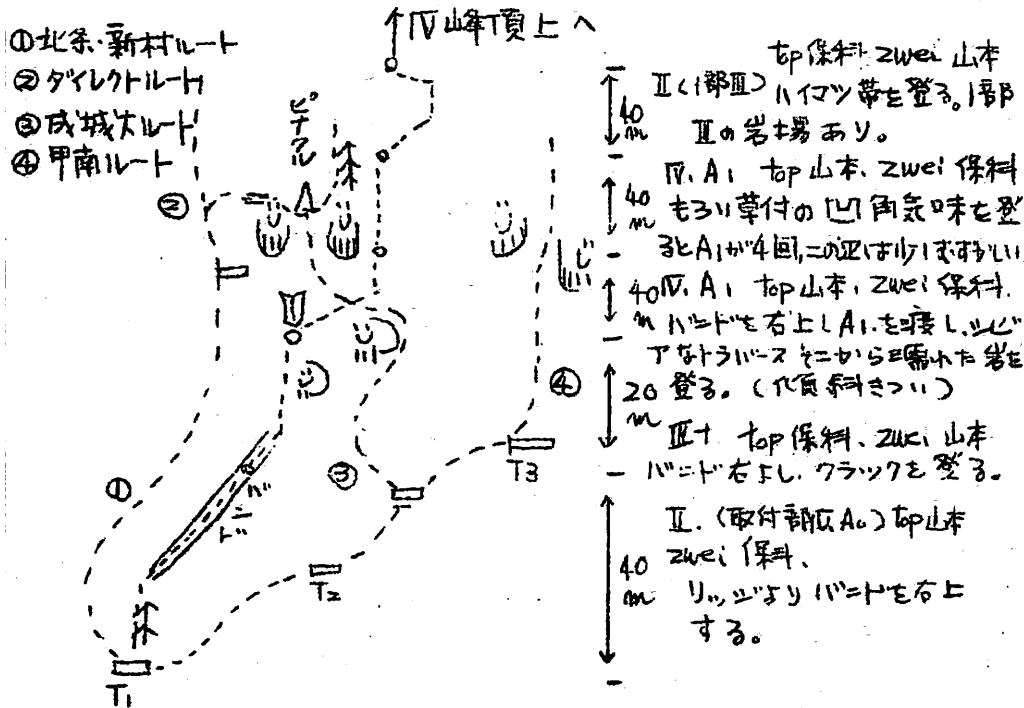


6月3日 ①時々◎
 ○北条・新村(地獄の黙示録)ルート Party
 L:山本, M:保料

B.C - ⅢⅣ - 5.6のゴル - T₁ - 終3点 - ⅢⅣのゴル - ⅢⅣ - B.C
 5:10 7:10 8:05 9:40 13:10 14:00 15:00 16:30

ⅢⅣより、松高根と4人で交代でキックステップで、ⅤⅥの
 ゴルへ行く。雪質がよく40分で着くが、バテチャ→トリ。
 ⅤⅥのゴルより、北尾根をⅤ峰を越えて、ⅣⅤのゴルへ行き
 きながら、D沢をグリセードと横スベリで、再び取付へと登る。
 取付へは、雪の状態が極めて悪く、T₁への最後の1ピッチはサイ
 ルを使う。T₁より「地獄の黙示録ルート」を小夫通へ登る。あと
 はⅣの頂上へ登りつめ、本隊と合流しⅢⅣのゴルよりⅢⅣへ下る。

(地獄の黙示録ルート図)



[感想] 7人いっしょに草付のキックステップを登ったが、あのホールの
 凹角は忘れへんぞ。ウオー、山本さんお疲れさまでした。(保料)
 保料君とんもすみません。しかしまあ緊張の連続だったね。
 もう1人ない二人で登る。私はパーペキト自信を失ったよ、ホント。
 <山本>

6月4日 ①

◦ A Party

L 山本 吉岡 岩村, 茂呂, 藤井, 田辺, 仲根 松本 飯島
有賀 金

B・C — 三ヶ沢 — 雪上訓練 — 北総頂上 — B・C
4:20 6:20 12:45 16:40

◦ 北総頂上がまわりの山と谷の説明を聞く
グリセード横スハリで雪渓を下る

◦ B Party

L 川原 加藤 田端 杉山 保科 沢井, 和川, 高橋, 伴

B・C — 三ヶ沢 — 雪上訓練 — 北総頂上 — B・C
4:25 6:25 12:45 16:40

◦ 雪上訓練が三ヶ沢停止 キックステックをたも行う。
頂上の展望がすばらしかった。

6月4日 ①

・ドーム西壁10-ティ

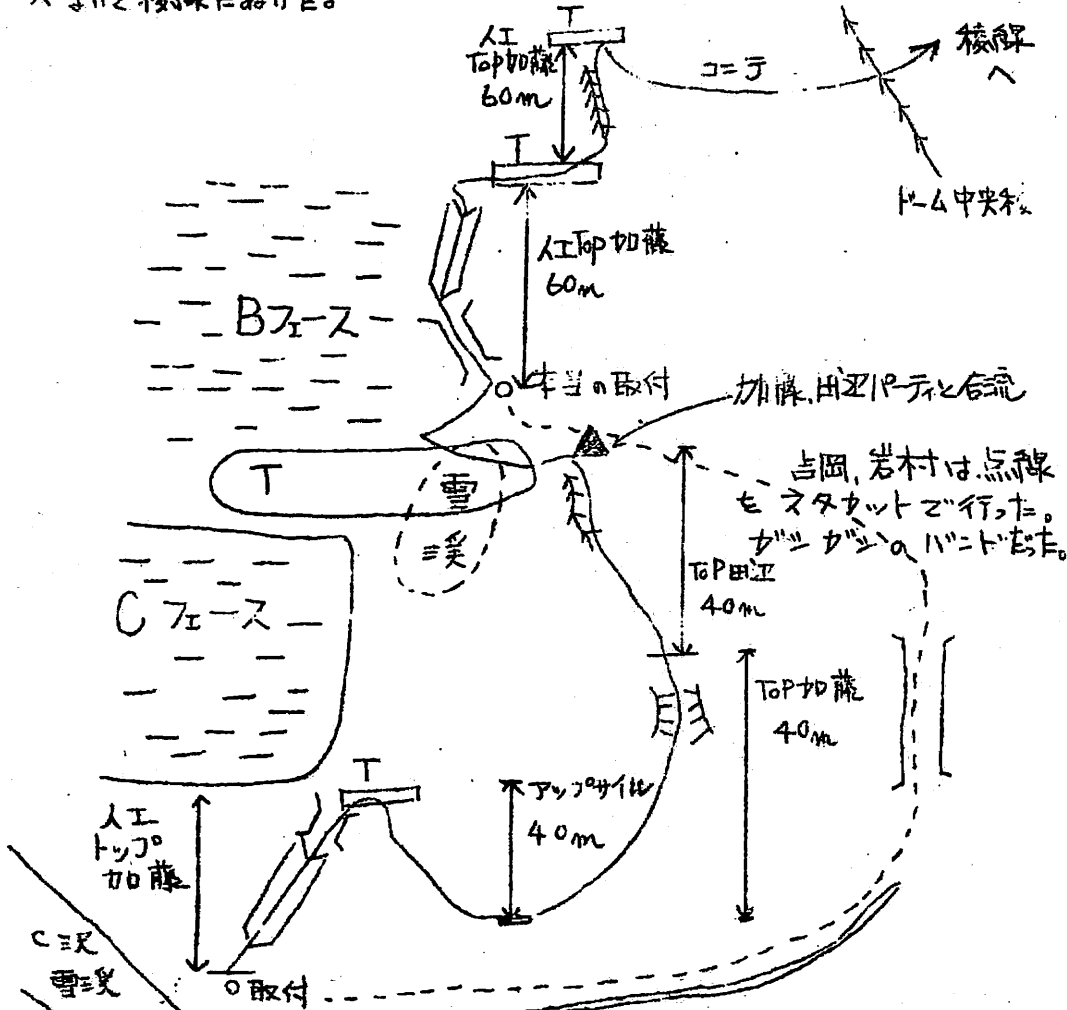
L:吉岡,岩村(雪表ルートのはずすため。)

L:加藤,田辺(齒科大ルートのはずすため。)

BC - 掛沢 - 北穂 - C 状況後下降取付 - 終る - B・C

4:20 6:20 8:20 9:10 15:20 17:30

C 沢は、固い雪がうめつくしていたのでアイゼンもつけて下降した。C フェースの下あたりまで降りてしまひ、本当の取付につくまでには3時間ほどかかってしまった。雪表(齒科大ルート)のはじめの44m はザクをかついていると非常にむづかしい。左のフェースに登るべきだと思う。あとは人工で登り。(=水もたはらむむづかしいのです。)最後はA スーフのテラスについたが、時間がながたので中央稜へまいて稜線にゆけた。



[感想] 多少きつめたが、人工が楽だった。by 田辺

6月5日(木)

天気 ① ~~晴~~

★ Aパーティー L.吉岡 M.保科・田辺・細川
飯島・金

B・C 薙 — 洞沢着 — 雪割 — 白出のゴル —
(4:00) (6:00) (6:00~7:00) (8:40)

— 奥穂 — 洞沢 — B・C着
(9:40) (11:30) (13:50)

・今日の雪割は雪質が悪かったせいもあって短かった。奥穂に9:40に着き、のんびりした後、洞沢に下り、そこでまたのんびりした。それなのになぜかB・Cには13:50。今日は、天気もよく、行動時間も短かく、楽しい一日だった。(細川)

★ Bパーティー L.加藤 M.川原・吉岡・丸山
田淵・松本・中根
伴・有賀・澤田

B・C — 洞沢 [川原・松本B・Cに乗る] — 雪割 —
(4:00) (6:00) (6:00~6:50)

— 奥穂山荘 — 奥穂 — 洞沢 — B・C
(9:00) (9:40) (11:30) (13:50)

・奥穂からの展望は良かった。登る途中、女の人から滑落し、しっかりしたステップを切る事の重要性を再認識した。(澤田)

6月5日(木) ①

* クラック尾根パーティー L. 山本. M 藤井

BC — 淵沢 — 北穂 — 取付 — 終了 —
(4:00) (6:10) (7:40) (8:40) (11:40)

— 淵沢 — B・C
(12:20) (13:50)

- B沢の下降... 200m程下降した所より、雪渓となる。非常にかたい雪だが、横滑りする。
 - 3 pick ... ピナクルを上部まで、クラックを利用して登り左へぬける。カイルの流れが悪い。
 - 5 pick ... 凹所に3本のクラックが走っており、足は左端右手は中央のクラックを利用。ピトンが少ない。
 - 6 pick ... ルートはピナクルの左のカンテ、或いは右のフェースであるが、ダイレクトに登ったため、非常にむっせしかった。腕力が必要である。
 - 8 pick ... 石がゴロゴロあり登りにくい。
 - 9 pick ... エビのシッコの子供みたくのが付着しているが、かたいフェース
- ◎ 全体として、浮石・浮ピトンが多く、またピトン自体も少ない。しかし、好ルートであった。(藤井)

6月5日(木) ② → ①

* 1尾根パーティー 上.吉田. M.田淵

B.C — 洞沢 — 北穂 — 取付 — 終了
(4:00) (6:00) (7:40) (8:55) (10:50)

- 1 pick ... トップ 田淵。凹角. 30m.
- 2 pick ... トップ 吉田。凹角. 30m, 凹角の出口付近に. チョウクストーン状の小ハンク有り。
- 3 pick ... トップ 田淵。むすフルへ右土し. 左上するバンドへ。
- 4 pick ... トップ 吉田。容易なフェース。
- 5 pick ... トップ 田淵。凹角あり。凹角の上部はむすい。
- 6 pick ... トップ 吉田。チムニーをぬけると支後壁に出る。

◎ 2 pick めの小ハンクにてまどろたのが心残りだった。天気にもめぐまれ。快適そのものという1日だった。(田淵)

6月6日(金)

天姥 ①

上. 山本 M. 藤井. 田淵. 保科. 吉田. 師田
関. 丸山. 茂呂. 細川. 飯島. 高橋
中根. 有賀. 伴. 金. 澤田. 松本

B.C 出発 — 奥又白池着 — 雪 割
(4:30) (8:05) (8:20 ~ 11:00)

— 五. 六のゴル着 — 洞 沢 着
(12:40) (13:25)

— B.C 着
(14:40)

- ・ 奥又白^池は思ってたより小さくが、かり
した。洞沢までのシリセードはおも
しろかったが、五. 六のゴルまでの
登りはきつかった。五. 六のゴル付近
ですこい落石があり、もう少して
やられていた。こわ〜い。(松本)

6月6日

四峰正祖登北条新村ハート

B.C 4:20
涸沢 6:25
五穴の川 11:25
取付 9:05
ハートテラス 12:50
終了 3:30

4. 吉岡、岩村

不終了
2P
サビカがゴキウ
トラバースがゴキウ。

取付のハートテラス 3P TOP岩村2吉岡

けっこうしんじがった。
まずT.の右と右の草付バンドを登り
ぬかす。

ハートテラス-ハンダー-ピナクル-カンテ右
2P、下吉岡2岩村

ハンダをぬけ、トラバース(ピナクル)し
カンテを右に回り込んだ地点でサビカ
が流水にくくなりまじった。
トラバースは下り気味でゴキウ。

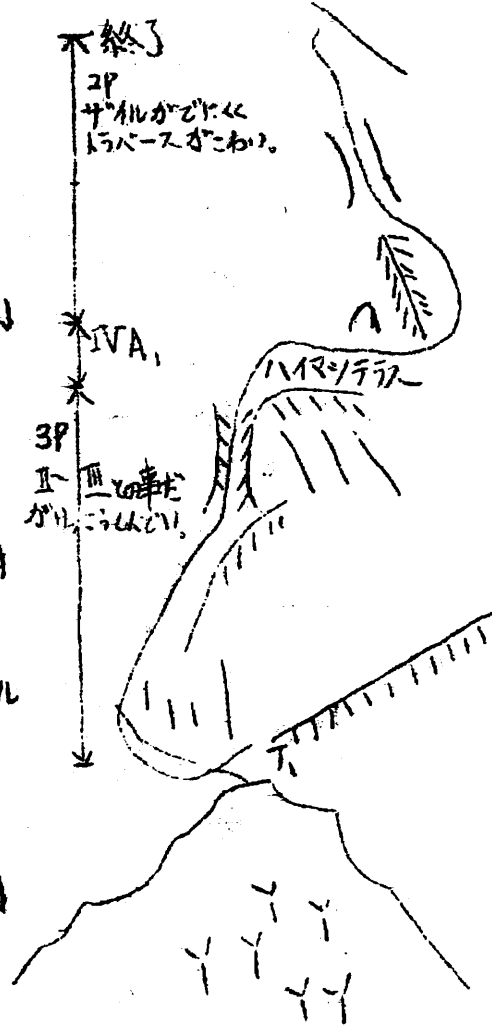
凹状フェイス 1P TOP岩村2吉岡

ここはけっこう楽しかった。

(感想)

今晩時間がかかった。アブミがへたただなあと
自分で思い知った登攀だった事。

—岩村—

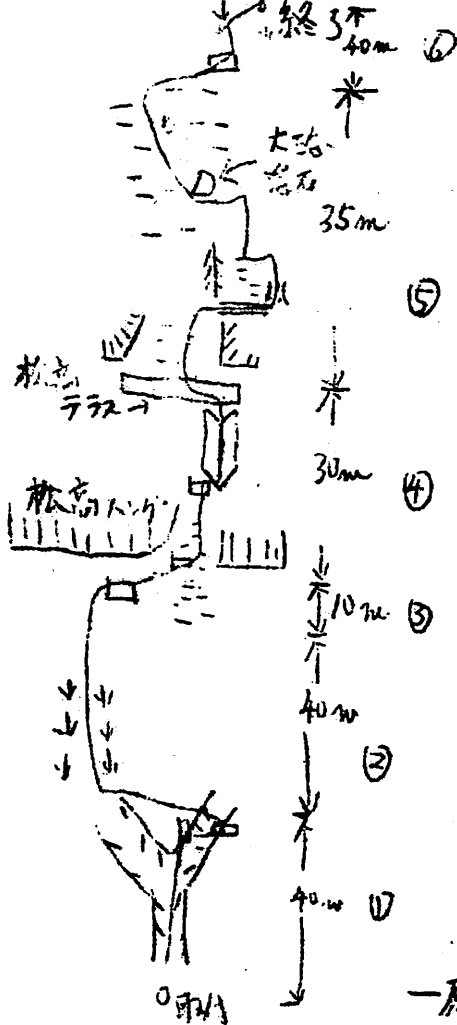


6月6日

松高ルート

ト加藤、田辺

- ① B.C 4:20
- 滞戻 6:25
- 5.6の210 7:25
- 取付 9:05
- 終了 11:30
- 5.6の210 1:10
- 滞戻 1:25



① 単付のガリーは右を割た途中
左をいくはずだ法が右に
行くと降り次のピッチがバースに
ルートにむき決 top田辺

② トラバースから簡単な単付
top加藤

③ バンドヒ入り松高ハンクの下を
トラバース。 top田辺

④ ハンク横の垂壁をAで登る
右半の残置 シュリンクを
ギリ左手を上にのぼると大岩
ホールドがある。おけた所に小
なテラスがある。次のピッチは
層ごみ top加藤

⑤ シルシルのストラッグをAでこし、リッジ
をまわるとリッジにはロープが
打ちまわっているがその右の小岩
ガリーを登った方が1110。次
のストラッグは右下の木の石がバコッ
とぶくので注意が必要
リッジをめぐり登りストラッグをぬけ
て右に折るとテラスがある。

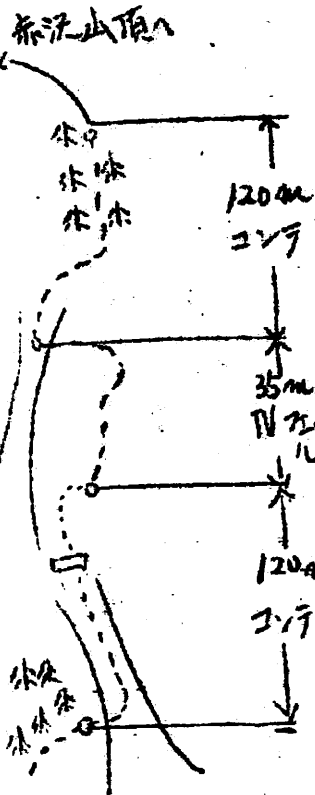
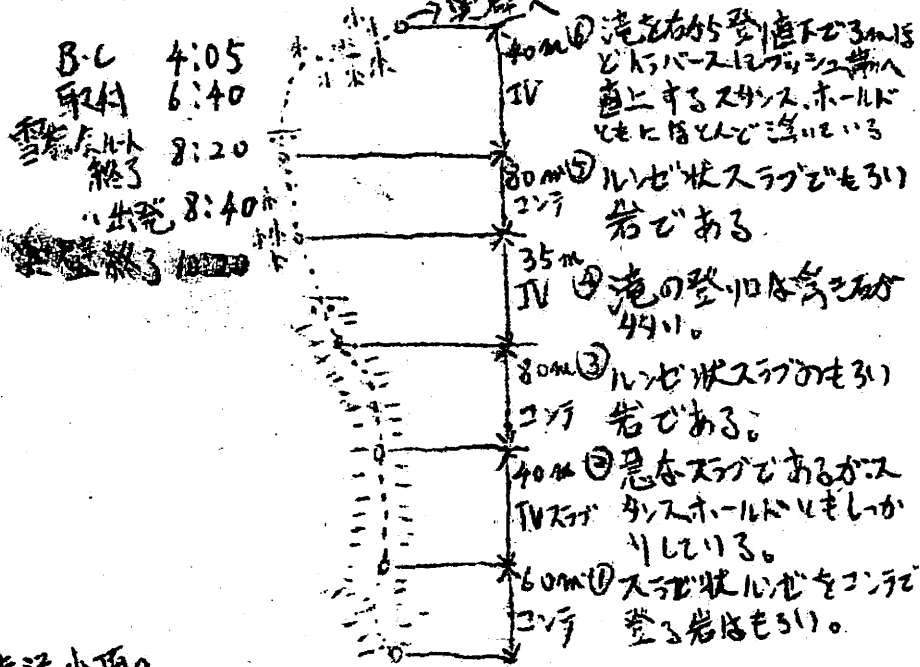
⑥ テラスの上からすしかがりぎみだ
が、それをこせばあとはホィホィ

-感想-

最高の高度感! ストラッシュ。

-田辺-

6月7日 赤沢山雪嶺ルート 上田 茂昌



③ルンゼからアングラー帯へ滝石が4411
が問題はない

②左側のルンゼ ③横のリスを登る
滝石が4411 岩もスラブに付いて滑
る。上部のルンゼへのトリバーズは
ホルトが滑りやすスキャンは傾斜している。

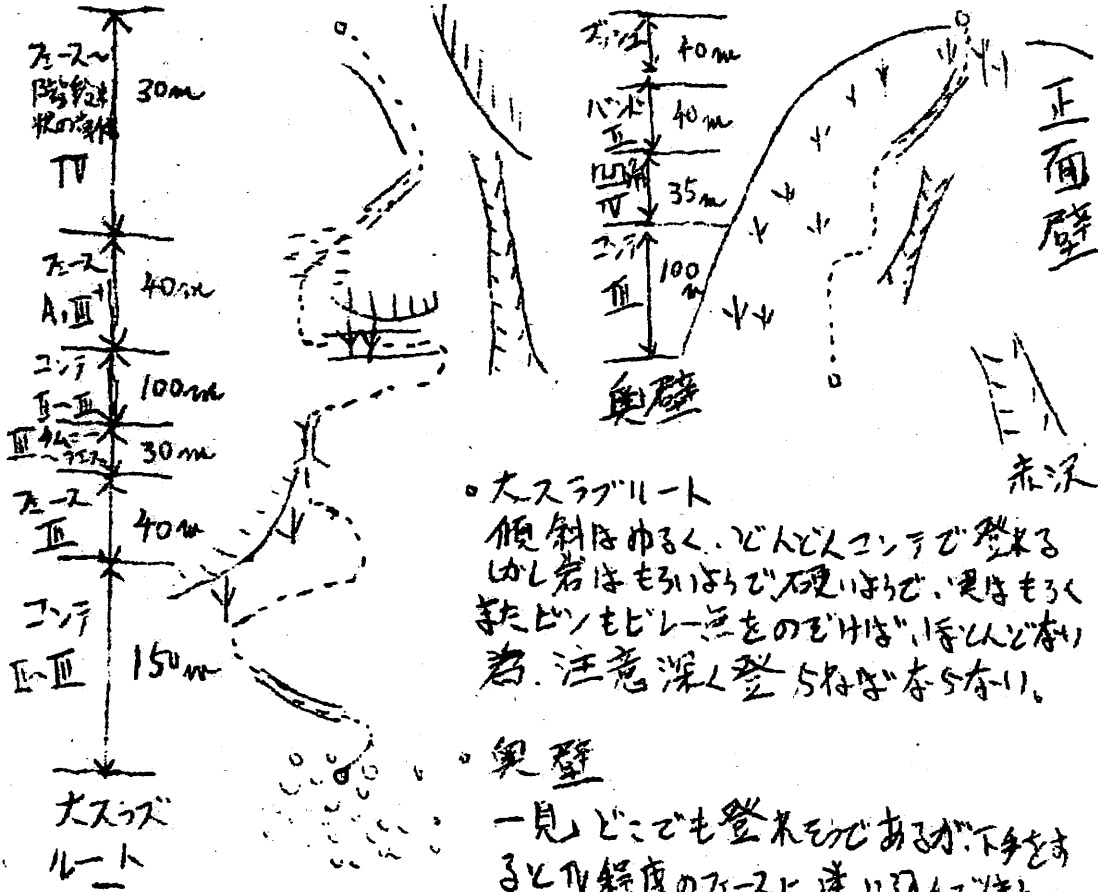
①ルンゼをコンテで登る 滝石が4411

6月7日

赤沢山大スラブルートへ奥壁 Party

△山本 藤井

- 旧糖沢ロッジ 6:20◎
- 取付 6:40◎
- 終了 10:40◎
- 糖沢ロッジ 12:00◎



○大スラブルート
 傾斜はゆるく、ほとんどコンテで登れる
 かし岩はもろいばかりで硬いばかり、奥はもろく
 鉄ピンもビレ一本をのびけは、1本1本と
 着、注意深く登る必要がある。

○奥壁
 一見どこでも登れそうだが下手を
 するとIV程度のスラに迷い込んでしま
 ピンは皆無とかツリが使える。
 下降心は雪がなければの便はないか
 雨曇りの最低エルから楽に下れる。

—感想—

師田さんは恐い人だと思った。おしり。
 —藤井—

6月7日

槍ヶ岳

A party member (L) 加藤, 保科, 関, 伴, 金, 有賀, 澤田

横尾B.C
4:05

槍の肩
9:17~10:25

槍ヶ岳頂上
10:36~11:05

槍沢小屋跡
13:15~13:30

横尾B.C
15:40

槍沢から槍の肩までの雪渓が長くしんどかった。A partyと
B partyのペースに差があって、槍の肩で待っている時間が
長かった。 (有賀)

6月8日

下山

Member (L) 加藤 山本 吉岡 丸山 田辺 藤井 保科

関 田判 金 岩村 茂呂 中根 澤田 有賀

細川 飯島 松本 高橋 伴

天場 ——— 新村橋 ——— 徳沢園 ——— 明神 ———
9:15 ⊙ 10:13~11:05 ⊙ = 11:20~11:35 ⊙ 12:19~12:24 ⊙ †

—上高地 ~~夕ヶシ~~ 松本
1:13 ⊙ 3:10 ⊙

時々雷をともなて雨が激しく降る中の下山となった。全員
びしょ濡れとなった。まったくいやな天気だった。1年生は
連日の疲れと昨日のコンパのせいでかなりバテていたが
「下界へ帰れる」という希望だけでなんとかかんばり通した
者も少なくなかったようである。やっと終了。(中根)

個人 人の反省

- ・行動中は二年生部員としての責任及び行動は一応はたすことができたと思う反面、準備段階や、帰天後にすぐ本人の行動をしようとした。
(藤井)
- ・初日、2日目の準備はキツかった。又登攀の技術を知ることのできる思い、雪上訓練で一年生に対し特に思いをはせながら自分の弱点を強化しようとした。ボウも銃もまだ未熟だが、これが実感。
(岩村)
- ・上級生にも自分より力がある連中、行動が出来ない日があった。また赤沢山では落石により山本さんにはかきこせしてしまった。おし敬を言えども前日に登頂したかった。
(茂呂)
- ・合宿前に怪我を痛め、途中から参加せざるを得なかった。今回の合宿は体の故障が多過ぎたと思う。特に一年生と体力とに差があるのはなにかと思つた。また、冬山は行動、一年同志の連体など今後の活動で、二年生も指導の責任が不十分であった。
(関)
- ・天候に悩まされ、全日行動できなかったが、自分も怪我で故障者が多かった。一年生、自分も体力不足が原因であると思えるのでトレーニングに励んで下さう。3日目の力加のため雪崩やバリエーションへ行動できなかったのが残念です。転落については登攀技術等の力不足と布制の履きものに欠けていたためであると思えます。
(丸山)
- ・入山後力せをわいて毎日山を歩いた健康管理の有用性を痛感した。合宿に対する精神的苦しみも原因となっているのであろう。また一年生に指導するもつかしさを感じた。
(田渕)
- ・毎朝体調に行動力と体力、ともに自分にそぐわしくなかった。二年生にも十分な指導ができていたのが残念である。一年生も体力をつけてほしい。合宿全体としては充実していたと思う。
(保科)
- ・二年部員として新入部員の指導の志力を知った。どなりつけたら、二年生もなやまなやまと思つても、自分の技術の未熟さゆえに、一瞬ためらう。また入山前の勉強不足で、岩場ルートを教えず、努力が足りなかったことを痛感した。個人的には体調もよく二年、岩かきで充実した合宿であった。
(田辺)

- 雪上訓練が不足であった。またエゼンダの副作用もいいため、
 乱雑であった。もちろん体力をつけなければいけないと思う。
 また朝食をもう少し多く食べられるようにしたい (飯島)
- 体力が全く不足していた。トレーニングと健康管理の難しさが分かった。
 食事は空腹にもなかなか胃が通らなりのびとでもつなかつた。
 日祭をお休にして途中で下山した。このトレーニングを一人でこな
 なかったことが情しかった。(松本)
- スローペースの為にバラバラな方法が登山山行を思いつくも、体力
 をつけなければと感じた。重い荷にも耐えられる様にトレーニングに
 励みたい。生治技術面では不安なところも十分働いている。
 雪上訓練も不足が本当で通用する自信がない。また精神
 面も鍛錬しなければいけないと思った。(糸田川)
- 体力不足を身に覚えを感じた。総本がボロボロのも、中頃に体調を
 崩したのも、全て体力不足のためである。生治技術は未熟だけれど、
 生治技術にも欠けたため、人々の時間を潰してしまっている。
 65cmのヒールでハッキリセードが危しかった。手元だけがぬすんで
 不足になりかねてしまった。(高橋)

- 係より 反省 -

ESSEN

- ESSENの準備段階における連絡が不十分であった
- ハウキニカに問題があった。やはり2箱になっても一日ごとにまとめるべきである。ともかく何らかの標準のもとに統一したハウキニカを準備しなければならない。
- 全体として費用がかかり過ぎた。
- Menu、分量とも問題なく、好評だった。

気象

- 一年生はまだ満足に天気図が書けるなという状況である。とにかく天気図を書ける様にして欲しい。又山では家で書くのと違い条件が悪く、少なくとも家では完全な図となるのが望ましい。今回は天気が安定して予報もよく当たった。外、これからは本等の資料で研究をつんで欲しい。夏山では正確な天気図が書ける様にはしよう。
(丸山)

医察

- 先和とにかく病人が多過ぎた。体力面は勿論の事、精神的に弱点があるのでは否か。一年生は当面体力増強を考之。二年生以上はプラスマイナスもつけてゆきたい。又医療箱の内容を明記してゆかねが、たのは矢張りである。

(藤井)

一 会計 一

収入	合宿費 + カ=110	円	190000
支出	ESSEN	円	108000
	給食	円	18000
	交通費	円	54000
		計	180000
残金		円	10000

備考 残金の10000円は部費に計れし可。

- ・ ESSENに多にかかり過ぎた
- ・ 領収書の管理が不十分だった

(セキ)

記録

・ 記録内容面で多少簡単すぎるものがあったが、去年に比べればはるかにましだと思ふ。
 だが1日だけノートが書いてない日があったのが残念に思ふ。

(田辺)

